項目別取りまとめ表（案）（期中評価委員会検討資料及び委員の意見を取りまとめたもの）

期中評価実施地区名	関東整備局　昭和38年度契約地
契約件数・面積及び植栽面積	契約件数111件　契約面積5,478ha（会津・新潟地区1,997ha、会津・新潟地区以外3,480ha） 植栽面積　スギ 1,412ha　ヒノキ 978ha　マツ 782ha　カラマツ 692ha （うち会津・新潟地区　823ha　－ ha　265ha　156ha）
森林・林業情勢、農山漁村の状況、その他の社会情勢の変化	関東整備局管内の都道府県における民有林のうち未立木地の面積は近年ほぼ横ばい状態にある。そのうち、保安林内外は不明であるものの、現在なお14万6千ha程度存在し、引き続き森林造成が必要である。 なお、民有林の保安林以外の面積割合については、減少傾向にある。 関東整備局管内の都道府県における私有林のうち不在村者所有森林は、平成12年から平成17年にかけて減少したものの依然と理し水準の低下が危惧される。 私有林面積のの4割程度を占める林家の保有山林規模別戸数をみると、1ha～10ha未満の林家が9割を占めているものの、面積は5割程度である。 木材価格の推移をみると、昭和55年をピークに下落傾向にあり、所有者等の自助努力による造林が困難となっている。 関東整備局管内の公私営別人工造林面積のうち、森林農地整備センター等の公的主体による人工造林面積の占める割合は全国なみの比率であるものの、増加傾向にあり、公的主体の果たす役割は引き続き大きい。
公益的機能からの重要性及び貢献度、関連公共施設の整備状況	利根川水系草木ダム、大井川水系大井ダム等に係る流域（集水区域）内に当該契約面積のうち55%が存在している。 簡易水道等の水道施設に係る流域（集水区域）内に当該契約面積のうち17%が存在している。 水源の森百選の「御岳昇仙峡水源の森」に水源林造成事業地の一部が含まれている。

事業の進捗状況（関東計）

森林調査済地（注1）

生育状況（面積比率：91%）（注3）

樹種	平均樹高	平均胸高直径	平均1ha当本数	不良 広葉樹化	不良 生育遅れ（注4）	不良 計
スギ	16.3m	23.0cm	333㎡	19%		19%
ヒノキ	14.6m	21.7cm	261㎡	12%		12%
マツ	17.1m	24.1cm	244㎡	20%	2%	22%
カラマツ	19.2m	22.8cm	258㎡	4%	1%	5%
計				15%	1%	16%

平均樹高及び平均胸高直径の数値は、サンプル調査した結果に基づく主林木のみの推計値である。

広葉樹林化した林分及び植栽木の生育が遅れている林分の原因

広葉樹林化した林分及び植栽木の生育が遅れている林分は16%である。
広葉樹林化した林分の原因：雪害が52%と大半を占める。
植栽木の生育が遅れている林分の原因：雪害が59%と大半を占める。

森林調査未済地（注2）

生育状況（面積比率：9%）

樹種	生育状況 良	普通	不良 広葉樹化	不良 生育遅れ	不良 小計	計
スギ	4%	56%	3%	37%	40%	100%
ヒノキ	3%	93%	1%	3%	4%	100%
マツ		61%	11%	28%	39%	100%
カラマツ		83%	17%		17%	100%
その他						
計	3%	82%	3%	12%	15%	100%

樹種別に不良の割合をみると、スギで40%、ヒノキで4%、マツで39%、カラマツで17%、樹種計で15%である。

（注）生育状況の基準
良好：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数（森林調査保険における給付限界生立本数で、以下同じ。）以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して1.2倍を超えるもの。
普通：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上1.2倍以下のもの。
不良：（a）～（c）は生育遅れ、（d）は広葉樹化に区分
（a）植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。（b）植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上あるもの。（c）植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。（d）広葉樹化した林分のもの。（広葉樹等の後生天然性樹木が過半を占める林分）

事業の進捗状況（会津・新潟地区）

森林調査済地（注1）

生育状況（面積比率：96%）（注3）

樹種	平均樹高	平均胸高直径	平均1ha当材積	不良 広葉樹化	不良 生育遅れ（注4）	不良 計
スギ	15.2m	23.3cm	306㎥	21%	1%	22%
マツ	16.1m	23.0cm	219㎥	15%	1%	16%
カラマツ	17.5m	22.7cm	201㎥	8%		
計				18%	1%	19%

平均樹高及び平均胸高直径の数値は、サンプル調査した結果に基づく主林木のみの推計値である。

広葉樹林化した林分及び植栽木の生育が遅れている林分の原因

広葉樹林化した林分及び植栽木の生育が遅れている林分は19%である。
広葉樹林化した林分の原因：すべてが雪害となっている。
植栽木の生育が遅れている林分の原因：寒害が59%と大半を占める。

森林調査未済地（注2）

生育状況（面積比率：4%）

樹種	生育状況 良	普通	不良 広葉樹化	不良 生育遅れ	不良 小計	計
スギ	8%	21%		71%	71%	100%
ヒノキ						
マツ		47%		53%	53%	100%
カラマツ						
その他						
計	6%	26%		68%	68%	100%

樹種別に不良の割合をみると、スギで71%、マツで53%、樹種計で68%である。

（注）生育状況の基準
良好：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数（森林国営保険における齢級別限界生立本数で、以下同じ。）以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して1.2倍を超えるもの。
普通：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上1.2倍以下のもの。
不良：（a）～（c）は生育遅れ、（d）は広葉樹化に区分
（a）植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。（b）植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上あるもの。（c）植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。（d）広葉樹化した林分のもの。（広葉樹等の後生天然性樹木が過半を占める林分）

事業の進捗状況（会津・新潟地区以外）

森林調査済地（注1）

生育状況（面積比率：89%）（注3）

樹種	平均樹高	平均胸高直径	平均1ha当材積	不良 広葉樹化	不良 生育遅れ（注4）	不良 計
スギ	18.3m	24.0cm	374㎥	16%		16%
ヒノキ	14.6m	21.7cm	261㎥	12%		12%
マツ	17.8m	24.6cm	257㎥	22%	2%	24%
カラマツ	19.8m	23.2cm	224㎥	4%	1%	5%
計				14%	1%	15%

平均樹高及び平均胸高直径の数値は、サンプル調査した結果に基づく主林木のみの推計値である。

広葉樹林化した林分及び植栽木の生育が遅れている林分の原因

広葉樹林化した林分及び植栽木の生育が遅れている林分は15%である。
広葉樹林化した林分の原因：雪害が36%と最も多い。
植栽木の生育が遅れている林分の原因：雪害が80%大半を占める。

森林調査未済地（注2）

生育状況（面積比率：11%）

樹種	生育状況 良	普通	不良 広葉樹化	不良 生育遅れ	不良 小計	計
スギ		92%	5%	3%	8%	100%
ヒノキ	3%	93%	1%	3%	4%	100%
マツ		77%	23%		23%	100%
カラマツ		83%	17%		17%	100%
その他						
計	2%	92%	3%	3%	6%	100%

樹種別に不良の割合をみると、スギで8%、ヒノキで4%、マツで23%、カラマツで17%、樹種計で6%である。

（注）生育状況の基準
良好：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数（森林国営保険における齢級別限界生立本数で、以下同じ。）以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して1.2倍を超えるもの。
普通：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上1.2倍以下のもの。
不良：（a）～（c）は生育遅れ、（d）は広葉樹化に区分
（a）植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。（b）植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上あるもの。（c）植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。（d）広葉樹化した林分のもの。（広葉樹等の後生天然性樹木が過半を占める林分）

事業コスト縮減の可能性	間伐に当たっては、契約相手方の理解を得るなかで選木及び間伐手法を工夫（列状間伐や間伐率を最大限に適用した強度な間伐等）することによりコスト縮減を図る。
景観への配慮	適切な森林整備の実施により、人工林の景観として良好な地域景観の形成に寄与している。なお、作業道開設等においては景観と調和する間伐材等木材を利用した工法の採用を進めている。
関係者の意見・意向（注5）	周辺の平均的な山林と同様の生育をしており、所在市町村及び契約相手方からの機能発揮への期待が大きく、引き続き適期作業の計画的な実施を要望している。

（注1）森林調査済地は、概ねⅣ齢級以上の造林地を対象として詳細な森林調査が実施された森林。
（注2）森林調査未済地は、改植等による若齢林である等の理由から、詳細な森林調査が実施されてない森林であって、表中の（注）の基準により生育状況を把握したもの。
（注3）森林調査済地の生育状況は、林齢別の生育状況を林齢別面積で加重平均したものである。（広葉樹林化した林分を除く。）
（注4）植栽木の生育が遅れている林分とは、樹高・1ha当たり材積とも収穫予測表の5等地の数値を1割以上下回る林分を示す。
（注5）関係者の意見・意向については、平成15年度アンケート調査によるものである。

	留意事項
期中評価実施地区の林分についての対応	・　当該地区の個々の契約地の生育状況を見ると、一部広葉樹林化した林分及び植栽木の生育が遅れている林分が存在するものの、契約地全体としては、植栽木が順調に生育していることから、密度管理のための間伐を行うなど適正な保育管理を行い、間伐収入の確保に努めながら主伐期の林分に誘導していく。 また、雪害・寒害等によって広葉樹林化した一部の林分については、侵入広葉樹の育成に重点を置いた施業へ変更し、植栽木の生育が遅れている一部の林分については、植栽木の成長を見守りつつ、当分の間必要最小限の保育等にとどめる。 ・　過去の契約地の事業実績や評価検討内容を参考にして、適切な保育管理に努める。

項目別取りまとめ表（案）（期中評価委員会検討資料及び委員の意見を取りまとめたもの）

期中評価実施地区名	関東整備局　昭和43年度契約地
契約件数・面積及び植栽面積	契約件数47件　契約面積1,487ha（会津・新潟地区641ha、会津・新潟地区以外846ha） 植栽面積　スギ 388ha　ヒノキ 298ha　マツ 227ha　カラマツ 18ha （うち会津・新潟地区 308ha　－ ha　101ha　1ha）
森林・林業情勢、農山漁村の状況、その他の社会情勢の変化	関東整備局管内の都道府県における民有林のうち未立木地の面積は近年ほぼ横ばい状態にある。そのうち、保安林内外は不明であるものの、現在なお14万6千ha程度存在し、引き続き森林造成が必要である。 なお、民有林の保安林以外の面積割合については、減少傾向にある。 関東整備局管内の都道府県における私有林のうち不在村者所有森林は、平成12年から平成17年にかけて減少したものの依然として私有林面積の約2割をしめており、また、そのうち約5割は県外在住者で全国平均を上回っており、地域の森林の管理水準の低下が危惧される。 私有林面積の4割程度を占める林家の保有山林規模別戸数をみると、1ha～10ha未満の林家が9割を占めているものの、面積は5割程度である。 木材価格の推移をみると、昭和55年をピークに下落傾向にあり、所有者等の自助努力による造林が困難となっている。 関東整備局管内の公私営別人工造林面積のうち、森林農地整備センター等の公的主体による人工造林面積の占める割合は全国なみの比率であるものの、増加傾向にあり、公的主体の果たす役割は引き続き大きい。
公益的機能からの重要性及び貢献度、関連公共施設の整備状況	阿賀野川水系揚川ダム、利根川水系須田貝ダム等に係る流域（集水区域）内に当該契約面積のうち70％が存在している。 簡易水道等の水道施設に係る流域（集水区域）内に当該契約面積のうち15％が存在している。

事業の進捗状況（関東計）

森林調査済地（注1）

生育状況（面積比率：83％）（注1）

樹種	平均樹高	平均胸高直径	平均1ha当たり材積	不良 広葉樹化	不良 生育遅れ（注4）	不良 計
スギ	14.3m	20.8cm	276㎥	18％		18％
ヒノキ	14.6m	20.3cm	274㎥	4％		4％
マツ	13.5m	20.2cm	195㎥	19％	13％	32％
カラマツ	13.0m	17.3cm	137㎥			
計				14％	4％	18％

平均樹高及び平均胸高直径の数値は、サンプル調査した結果に基づく主林木のみの推計値である。

広葉樹林化した林分及び植栽木の生育が遅れている林分の原因

広葉樹林化した林分及び植栽木の生育が遅れている林分は18％である。
広葉樹林化した林分の原因：雪害が52％と大半を占める。
植栽木の生育が遅れている林分の原因：雪害が59％と大半を占める。

森林調査未済地（注2）

生育状況（面積比率：17％）

樹種	生育状況 良	普通	不良 広葉樹化	不良 生育遅れ	不良 小計	計
スギ		93％		7％	7％	100％
ヒノキ	23％	77％				100％
マツ			75％	25％	100％	100％
カラマツ						
その他						
計	16％	77％	4％	3％	7％	100％

樹種別に不良の割合をみると、スギで7％、マツで100％、樹種計で7％である。

（注）生育状況の基準
良好：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数（森林国営保険における樹級別限界生立本数で、以下同じ。）以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して1.2倍を超えるもの。
普通：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上1.2倍以下のもの。
不良：（a）～（c）は生育遅れ、（d）は広葉樹化に区分
（a）植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。（b）植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上あるもの。（c）植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。（d）広葉樹化した林分のもの。（広葉樹等の復生天然性樹木が過半を占める林分）

事業の進捗状況（会津・新潟地区）

森林調査済地（注1）

生育状況（面積比率：90%）（注1）

樹種	平均樹高	平均胸高直径	平均1ha当材積	不良 広葉樹化	不良 生育遅れ（注4）	不良 計
スギ	13.5m	20.3cm	249㎥	21%		21%
マツ	11.7m	17.2cm	175㎥	11%	32%	43%
カラマツ	9.5m	20.0cm	95㎥			
計				18%	8%	26%

平均樹高及び平均胸高直径の数値は、サンプル調査した結果に基づく主林木のみの推計値である。

広葉樹林化した林分及び植栽木の生育が遅れている林分の原因

広葉樹林化した林分及び植栽木の生育が遅れている林分は26%である。
広葉樹林化した林分の原因：すべてが雪害となっている。
植栽木の生育が遅れている林分の原因：寒害が59%と大半を占める。

森林調査未済地（注2）

生育状況（面積比率：10%）

樹種	生育状況 良	普通	不良 広葉樹化	不良 生育遅れ	不良 小計	計
スギ		92%		8%	8%	100%
ヒノキ						
マツ				100%	100%	100%
カラマツ						
その他						
計		91%		9%	9%	100%

（注）生育状況の基準
良好：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数（森林国営保険における齢級別限界生立本数で、以下同じ。）以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して1.2倍を超えるもの。
普通：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上1.2倍以下のもの。
不良：（a）～（c）は生育遅れ、（d）は広葉樹化に区分
（a）植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。（b）植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上あるもの。（c）植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。（d）広葉樹化した林分のもの。（広葉樹等の後生天然性樹木が過半を占める林分）

樹種別に不良の割合をみると、スギで8%、マツで100%、樹種計で9%である。

事業の進捗状況（会津・新潟地区以外）

森林調査済地（注1）

生育状況（面積比率：77%）（注3）

樹種	平均樹高	平均胸高直径	平均1ha当材積	不良 広葉樹化	不良 生育遅れ（注4）	不良 計
スギ	17.5m	23.8cm	362㎥	9%		9%
ヒノキ	14.6m	20.3cm	274㎥	4%		4%
マツ	15.0m	22.5cm	210㎥	24%		24%
カラマツ	13.1m	17.3cm	138㎥			
計				11%		11%

平均樹高及び平均胸高直径の数値は、サンプル調査した結果に基づく主林木のみの推計値である。

広葉樹林化した林分及び植栽木の生育が遅れている林分の原因

広葉樹林化した林分は11%である。
広葉樹林化した林分の原因：雪害が36%と最も多い。

森林調査未済地（注2）

生育状況（面積比率：23%）

樹種	生育状況 良	普通	不良 広葉樹化	不良 生育遅れ	不良 小計	計
スギ		100%				100%
ヒノキ	23%	77%				100%
マツ			79%	21%	100%	100%
カラマツ						
その他						
計	21%	72%	5%	2%	7%	100%

（注）生育状況の基準
良好：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数（森林国営保険における齢級別限界生立本数で、以下同じ。）以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して1.2倍を超えるもの。
普通：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上1.2倍以下のもの。
不良：（a）～（c）は生育遅れ、（d）は広葉樹化に区分
（a）植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。（b）植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上あるもの。（c）植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。（d）広葉樹化した林分のもの。（広葉樹等の後生天然性樹木が過半を占める林分）

樹種別に不良の割合をみると、マツで100%、樹種計で7%である。

事業コスト縮減の可能性	間伐に当たっては、契約相手方の理解を得るなかで選木及び間伐手法を工夫（列状間伐や間伐率を最大限に適用した強度な間伐等）することによりコスト縮減を図る。
景観への配慮	適切な森林整備の実施により、人工林の景観として良好な地域景観の形成に寄与している。なお、作業道開設等においては景観と調和する間伐材等木材を利用した工法の採用を進めている。
関係者の意見・意向（注5）	周辺の平均的な山林と同様の生育をしており、所在市町村及び契約相手方からの機能発揮への期待が大きく、引き続き適期作業の計画的な実施を要望している。

（注1）森林調査済地は、概ねⅣ齢級以上の造林地を対象として詳細な森林調査が実施された森林。
（注2）森林調査未済地は、改植等による若齢林である等の理由から、詳細な森林調査が実施されてない森林であって、表中の（注）の基準により生育状況を把握したもの。
（注3）森林調査済地の生育状況は、林齢別の生育状況を林齢別面積で加重平均したものである。（広葉樹林化した林分を除く。）
（注4）植栽木の生育が遅れている林分とは、樹高・1ha当たり材積とも収穫予測表の5等地の数値を1割以上下回る林分を示す。
（注5）関係者の意見・意向については、平成15年度アンケート調査によるものである。

	留意事項
期中評価実施地区の林分についての対応	・ 当該地区の個々の契約地の生育状況を見ると、一部広葉樹林化した林分及び植栽木の生育が遅れている林分が存在するものの、契約地全体としては、植栽木が順調に生育していることから、密度管理のための間伐を行うなど適正な保育管理を行い、間伐収入の確保に努めながら主伐期の林分に誘導していく。 また、雪害・寒害等によって広葉樹林化した一部の林分については、侵入広葉樹の育成に重点を置いた施業へ変更し、植栽木の生育が遅れている一部の林分については、植栽木の成長を見守りつつ、当分の間必要最小限の保育等にとどめる。 ・ 過去の契約地の事業実績や評価検討内容を参考にして、適切な保育管理に努める。

項目別取りまとめ表（案）（期中評価委員会検討資料及び委員の意見を取りまとめたもの）

期中評価実施地区名	関東整備局　昭和48年度契約地
契約件数・面積及び植栽面積	契約件数75件　契約面積2,963ha（会津・新潟地区1,143ha、会津・新潟地区以外1,820ha） 植栽面積　スギ 618ha　ヒノキ 644ha　マツ 124ha　カラマツ 446ha （うち会津・新潟地区 427ha　1ha　5ha　67ha）
森林・林業情勢、農山漁村の状況、その他の社会情勢の変化	関東整備局管内の都道府県における民有林のうち未立木地の面積は近年ほぼ横ばい状態にある。そのうち、保安林内外は不明であるものの、現在なお14万6千ha程度存在し、引き続き森林造成が必要である。 なお、民有林の保安林以外の面積割合については、減少傾向にある。 関東整備局管内の都道府県における私有林のうち不在村者所有森林は、平成12年から平成17年にかけて減少したものの依然として私有林面積の約2割をしめており、また、そのうち約5割は県外在住者で全国平均を上回っており、地域の森林の管理水準の低下が危惧される。 私有林面積の4割程度を占める林家の保有山林規模別戸数をみると、1ha～10ha未満の林家が9割を占めているものの、面積は5割程度である。 木材価格の推移をみると、昭和55年をピークに下落傾向にあり、所有者等の自助努力による造林が困難となっている。 関東整備局管内の公私営別人工造林面積のうち、森林農地整備センター等の公的主体による人工造林面積の占める割合は全国なみの比率であるものの、増加傾向にあり、公的主体の果たす役割は引き続き大きい。
公益的機能からの重要性及び貢献度、関連公共施設の整備状況	大井川水系畑薙第1ダム、利根川水系下久保ダム等に係る流域（集水区域）内に当該契約面積のうち55%が存在している。 簡易水道等の水道施設に係る流域（集水区域）内に当該契約面積のうち19%が存在している。

事業の進捗状況（関東計）

森林調査済地（注1）

生育状況（面積比率：87%）（注3）

樹種	平均樹高	平均胸高直径	平均1ha当材積	不良 広葉樹化	不良 生育遅れ（注4）	不良 計
スギ	14.5m	20.5cm	297㎥	10%		10%
ヒノキ	13.5m	19.9cm	238㎥	16%		16%
マツ	12.0m	17.3cm	158㎥	10%	28%	38%
カラマツ	17.5m	20.9cm	214㎥	34%		34%
計				19%	2%	21%

平均樹高及び平均胸高直径の数値は、サンプル調査した結果に基づく主林木のみの推計値である。

広葉樹林化した林分及び植栽木の生育が遅れている林分の原因

広葉樹林化した林分及び植栽木の生育が遅れている林分は21%である。
広葉樹林化した林分の原因：雪害が52%と大半を占める。
植栽木の生育が遅れている林分の原因：雪害が59%と大半を占める。

森林調査未済地（注2）

生育状況（面積比率：13%）

樹種	生育状況 良	普通	不良 広葉樹化	不良 生育遅れ	不良 小計	計
スギ		64%	9%	27%	36%	100%
ヒノキ	1%	90%	2%	7%	9%	100%
マツ						
カラマツ		63%	12%	25%	37%	100%
その他						
計		73%	7%	20%	27%	100%

樹種別に不良の割合をみると、スギで36%、ヒノキで9%、カラマツで37%、樹種計で27%である。

（注）生育状況の基準
良好：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数（森林国営保険における齢級別限界生立本数で、以下同じ。）以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して1.2倍を超えるもの。
普通：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上1.2倍以下のもの。
不良：（a）～（c）は生育遅れ、（d）は広葉樹化に区分
（a）植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。（b）植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上あるもの。（c）植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。（d）広葉樹化した林分のもの。（広葉樹等の後生天然性樹木が過半を占める林分）

事業の進捗状況（会津・新潟地区）

森林調査済地（注1）

生育状況（面積比率：79%）（注1）

樹種	平均樹高	平均胸高直径	平均1ha当材積	不良 広葉樹化	不良 生育遅れ（注4）	不良 計
スギ	14.3m	31.0cm	291㎥	6%		6%
ヒノキ	13.7m	18.9cm	304㎥			
マツ	13.9m	19.6cm	202㎥	38%		38%
カラマツ	19.2m	22.4cm	248㎥	9%		9%
計				7%		7%

平均樹高及び平均胸高直径の数値は、サンプル調査した結果に基づく主林木のみの推計値である。

広葉樹林化した林分及び植栽木の生育が遅れている林分の原因

広葉樹林化した林分は7%である。
広葉樹林化した林分の原因：すべてが雪害となっている。

森林調査未済地（注2）

生育状況（面積比率：21%）

樹種	生育状況 良	普通	不良 広葉樹化	不良 生育遅れ	不良 小計	計
スギ		61%	10%	29%	39%	100%
ヒノキ						
マツ						
カラマツ						
その他						
計		61%	10%	29%	39%	100%

樹種別に不良の割合をみると、スギで39%、樹種計で39%である。

（注）生育状況の基準
良好：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数（森林国営保険における齢級別限界生立本数で、以下同じ。）以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して1.2倍を超えるもの。
普通：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上1.2倍以下のもの。
不良：（a）～（c）は生育遅れ、（d）は広葉樹化に区分
（a）植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。（b）植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上あるもの。（c）植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。（d）広葉樹化した林分のもの。（広葉樹等の後生天然性樹木が過半を占める林分）

事業の進捗状況（会津・新潟地区以外）

森林調査済地（注1）

生育状況（面積比率：90%）（注3）

樹種	平均樹高	平均胸高直径	平均1ha当材積	不良 広葉樹化	不良 生育遅れ（注4）	不良 計
スギ	15.7m	21.2cm	308㎥	17%		17%
ヒノキ	13.5m	19.9cm	238㎥	16%		16%
マツ	11.9m	17.1cm	156㎥	7%	31%	38%
カラマツ	17.1m	20.6cm	206㎥	38%		38%
計				23%	3%	26%

平均樹高及び平均胸高直径の数値は、サンプル調査した結果に基づく主林木のみの推計値である。

広葉樹林化した林分及び植栽木の生育が遅れている林分の原因

広葉樹林化した林分及び植栽木の生育が遅れている林分は26%である。
広葉樹林化した林分の原因：雪害が36%と最も多い。
植栽木の生育が遅れている林分の原因：雪害が80%大半を占める。

森林調査未済地（注2）

生育状況（面積比率：10%）

樹種	生育状況 良	普通	不良 広葉樹化	不良 生育遅れ	不良 小計	計
スギ		100%				100%
ヒノキ	1%	90%	2%	7%	9%	100%
マツ						
カラマツ		63%	12%	25%	37%	100%
その他						
計	1%	81%	5%	13%	18%	100%

樹種別に不良の割合をみると、ヒノキで9%、カラマツで37%、樹種計で18%である。

（注）生育状況の基準
良好：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数（森林国営保険における齢級別限界生立本数で、以下同じ。）以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して1.2倍を超えるもの。
普通：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上1.2倍以下のもの。
不良：（a）～（c）は生育遅れ、（d）は広葉樹化に区分
（a）植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。（b）植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上あるもの。（c）植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。（d）広葉樹化した林分のもの。（広葉樹等の後生天然性樹木が過半を占める林分）

事業コスト縮減の可能性	間伐に当たっては、契約相手方の理解を得るなかで選木及び間伐手法を工夫（列状間伐や間伐率を最大限に適用した強度な間伐等）することによりコスト縮減を図る。
景観への配慮	適切な森林整備の実施により、人工林の景観として良好な地域景観の形成に寄与している。なお、作業道開設等においては景観と調和する間伐材等木材を利用した工法の採用を進めている。
関係者の意見・意向（注5）	周辺の平均的な山林と同様の生育をしており、所在市町村及び契約相手方からの機能発揮への期待が大きく、引き続き適期作業の計画的な実施を要望している。

（注1）森林調査済地は、概ねⅣ齢級以上の造林地を対象として詳細な森林調査が実施された森林。
（注2）森林調査未済地は、改植等による若齢林である等の理由から、詳細な森林調査が実施されてない森林であって、表中の（注）の基準により生育状況を把握したもの。
（注3）森林調査済地の生育状況は、林齢別の生育状況を林齢別面積で加重平均したものである。（広葉樹林化した林分を除く。）
（注4）植栽木の生育が遅れている林分とは、樹高・1ha当たり材積とも収穫予測表の5等地の数値を1割以上下回る林分を示す。
（注5）関係者の意見・意向については、平成15年度アンケート調査によるものである。

	留意事項
期中評価実施地区の林分についての対応	・ 当該地区の個々の契約地の生育状況を見ると、一部広葉樹林化した林分及び植栽木の生育が遅れている林分が存在するものの、契約地全体としては、植栽木が順調に生育していることから、密度管理のための間伐を行うなど適正な保育管理を行い、間伐収入の確保に努めながら主伐期の林分に誘導していく。 また、雪害・寒害等によって広葉樹林化した一部の林分については、侵入広葉樹の育成に重点を置いた施業へ変更し、植栽木の生育が遅れている一部の林分については、植栽木の成長を見守りつつ、当分の間必要最小限の保育等にとどめる。 ・ 過去の契約地の事業実績や評価検討内容を参考にして、適切な保育管理に努める。

項目別取りまとめ表（案）（期中評価委員会検討資料及び委員の意見を取りまとめたもの）

期中評価実施地区名	関東整備局　昭和53年度契約地
契約件数・面積及び植栽面積	契約件数76件　契約面積1,719ha（会津・新潟地区310ha、会津・新潟地区以外1,409ha） 植栽面積　スギ 228ha　ヒノキ 522ha　マツ 22ha　カラマツ 75ha　その他 5ha （うち会津・新潟地区　84ha　－ ha　15ha　－ ha　－ha）
森林・林業情勢、農山漁村の状況、その他の社会情勢の変化	関東整備局管内の都道府県における民有林のうち未立木地の面積は近年ほぼ横ばい状態にある。そのうち、保安林内外は不明であるものの、現在なお14万6千ha程度存在し、引き続き森林造成が必要である。 なお、民有林の保安林以外の面積割合については、減少傾向にある。 関東整備局管内の都道府県における私有林のうち不在村者所有森林は、平成12年から平成17年にかけて減少したものの依然私有林面積の約2割をしめており、また、そのうち約5割は県外在住者で全国平均を上回っており、地域の森林の管理水準の低下が危惧される。 私有林面積の4割程度を占める林家の保有山林規模別戸数をみると、1ha～10ha未満の林家が9割を占めているものの、面積は5割程度である。 木材価格の推移をみると、昭和55年をピークに下落傾向にあり、所有者等の自助努力による造林が困難となっている。 関東整備局管内の公私営別人工造林面積のうち、森林農地整備センター等の公的主体による人工造林面積の占める割合は全国なみの比率であるものの、増加傾向にあり、公的主体の果たす役割は引き続き大きい。
公益的機能からの重要性及び貢献度、関連公共施設の整備状況	利根川水系五十里ダム、天竜川水系船明ダム等に係る流域（集水区域）内に当該契約面積のうち61%が存在している。 簡易水道等の水道施設に係る流域（集水区域）内に当該契約面積のうち12%が存在している。

事業の進捗状況（関東計）

森林調査済地（注1）

生育状況（面積比率：83%）（注1）

樹種	平均樹高	平均胸高直径	平均1ha当たり本数	不良 広葉樹化	不良 生育遅れ（注4）	不良 計
スギ	14.5m	19.4cm	285㎥	4%		4%
ヒノキ	13.1m	18.6cm	236㎥	15%		15%
マツ	11.6m	15.2cm	179㎥	14%	13%	27%
カラマツ	15.2m	17.7cm	183㎥	7%		7%
計				11%		11%

平均樹高及び平均胸高直径の数値は、サンプル調査した結果に基づく主林木のみの推計値である。

広葉樹林化した林分及び植栽木の生育が遅れている林分の原因

広葉樹林化した林分及び植栽木の生育が遅れている林分は11%である。
広葉樹林化した林分の原因：雪害が52%と大半を占める。
植栽木の生育が遅れている林分の原因：雪害が59%と大半を占める。

森林調査未済地（注2）

生育状況（面積比率：17%）

樹種	生育状況 良	普通	不良 広葉樹化	不良 生育遅れ	不良 小計	計
スギ		84%		16%	16%	100%
ヒノキ	37%	55%	5%	3%	8%	100%
マツ			100%		100%	100%
カラマツ						
その他						
計	34%	57%	5%	4%	9%	100%

（注）生育状況の基準
良好：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数（森林国営保険における齢級別限界生立本数で、以下同じ。）以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して1.2倍を超えるもの。
普通：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上1.2倍以下のもの。
不良：（a）～（c）は生育遅れ、（d）は広葉樹化に区分
（a）植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。（b）植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上あるもの。（c）植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。（d）広葉樹化した林分のもの。（広葉樹等の後生天然性樹木が過半を占める林分）

樹種別に不良の割合をみると、スギで16%、ヒノキで8%、マツで100%、樹種計で9%である。

事業の進捗状況（会津・新潟地区）

森林調査済地（注1）

生育状況（面積比率：98%）（注1）

樹種	平均樹高	平均胸高直径	平均1ha当材積	不良 広葉樹化	不良 生育遅れ（注4）	不良 計
スギ	12.1m	18.5cm	213㎥	6%		6%
マツ	10.4m	12.6cm	163㎥	7%	20%	27%
計				6%	3%	9%

平均樹高及び平均胸高直径の数値は、サンプル調査した結果に基づく主林木のみの推計値である。

広葉樹林化した林分及び植栽木の生育が遅れている林分の原因

広葉樹林化した林分及び植栽木の生育が遅れている林分は9%である。
広葉樹林化した林分の原因：すべてが雪害となっている。
植栽木の生育が遅れている林分の原因：寒害が59%と大半を占める。

森林調査未済地（注2）

生育状況（面積比率：2%）

樹種	生育状況 良	普通	不良 広葉樹化	不良 生育遅れ	不良 小計	計
スギ				100%	100%	100%
ヒノキ						
マツ						
カラマツ						
その他						
計				100%	100%	100%

（注）生育状況の基準
良好：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数（森林国営保険における樹種別限界生立本数で、以下同じ。）以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して1.2倍を超えるもの。
普通：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上1.2倍以下のもの。
不良：（a）～（c）は生育遅れ、（d）は広葉樹化に区分
（a）植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。（b）植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上あるもの。（c）植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。（d）広葉樹化した林分のもの。（広葉樹等の後生天然性樹木が過半を占める林分）

樹種別に不良の割合をみると、スギで100%、樹種計で100%である。

事業の進捗状況（会津・新潟地区以外）

森林調査済地（注1）

生育状況（面積比率：81%）（注1）

樹種	平均樹高	平均胸高直径	平均1ha当材積	不良 広葉樹化	不良 生育遅れ（注4）	不良 計
スギ	16.3m	20.6cm	332㎥	3%		3%
ヒノキ	13.1m	18.6cm	238㎥	15%		15%
マツ	14.9m	21.1cm	215㎥	29%		29%
カラマツ	15.2m	17.7cm	183㎥	7%		7%
				11%		11%

平均樹高及び平均胸高直径の数値は、サンプル調査した結果に基づく主林木のみの推計値である。

広葉樹林化した林分及び植栽木の生育が遅れている林分の原因

広葉樹林化した林分は11%である。
広葉樹林化した林分の原因：雪害が36%と最も多い。

森林調査未済地（注2）

生育状況（面積比率：19%）

樹種	生育状況 良	普通	不良 広葉樹化	不良 生育遅れ	不良 小計	計
スギ		100%				100%
ヒノキ	37%	56%	5%	2%	7%	100%
マツ			100%		100%	100%
カラマツ						
その他						
計	34%	59%	5%	2%	7%	100%

（注）生育状況の基準
良好：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数（森林国営保険における樹種別限界生立本数で、以下同じ。）以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して1.2倍を超えるもの。
普通：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上1.2倍以下のもの。
不良：（a）～（c）は生育遅れ、（d）は広葉樹化に区分
（a）植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。（b）植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上あるもの。（c）植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。（d）広葉樹化した林分のもの。（広葉樹等の後生天然性樹木が過半を占める林分）

樹種別に不良の割合をみると、ヒノキで7%、マツで100%、樹種計で7%である。

事業コスト縮減の可能性	間伐に当たっては、契約相手方の理解を得るなかで選木及び間伐手法を工夫（列状間伐や間伐率を最大限に適用した強度な間伐等）することによりコスト縮減を図る。
景観への配慮	適切な森林整備の実施により、人工林の景観として良好な地域景観の形成に寄与している。なお、作業道開設等においては景観と調和する間伐材等木材を利用した工法の採用を進めている。
関係者の意見・意向（注5）	周辺の平均的な山林と同様の生育をしており、所在市町村及び契約相手方からの機能発揮への期待が大きく、引き続き道開作業の計画的な実施を要望している。

（注1）森林調査済地は、概ねⅣ齢級以上の造林地を対象として詳細な森林調査が実施された森林。
（注2）森林調査未済地は、改植等による若齢林である等の理由から、詳細な森林調査が実施されてない森林であって、表中の（注）の基準により生育状況を把握したもの。
（注3）森林調査済地の生育状況は、林齢別の生育状況を林齢別面積で加重平均したものである。（広葉樹林化した林分を除く。）
（注4）植栽木の生育が遅れている林分とは、樹高・1ha当たり材積とも収穫予測表の5等地の数値を1割以上下回る林分を示す。
（注5）関係者の意見・意向については、平成15年度アンケート調査によるものである。

	留　意　事　項
期中評価実施地区の林分についての対応	・　当該地区の個々の契約地の生育状況を見ると、一部広葉樹林化した林分及び植栽木の生育が遅れている林分が存在するものの、契約地全体としては、植栽木が順調に生育していることから、密度管理のための間伐を行うなど適正な保育管理を行い、間伐収入の確保に努めながら主伐期の林分に誘導していく。 また、雪害・寒害等によって広葉樹林化した一部の林分については、侵入広葉樹の育成に重点を置いた施業へ変更し、植栽木の生育が遅れている一部の林分については、植栽木の成長を見守りつつ、当分の間必要最小限の保育等にとどめる。 ・　過去の契約地の事業実績や評価検討内容を参考にして、適切な保育管理に努める。

項目別取りまとめ表（案）（期中評価委員会検討資料及び委員の意見を取りまとめたもの）

期中評価実施地区名	関東整備局　昭和58年度契約地
契約件数・面積及び植栽面積	契約件数21件　　契約面積494ha（会津・新潟地区73ha、会津・新潟地区以外421ha） 植栽面積　　スギ 128ha　ヒノキ 192ha　カラマツ 8ha　その他 4ha （うち会津・新潟地区　43ha　　－ ha　　8ha　　－ ha）
森林・林業情勢、農山漁村の状況、その他の社会情勢の変化	関東整備局管内の都道府県における民有林のうち未立木地の面積は近年ほぼ横ばい状態にある。そのうち、保安林内外は不明であるものの、現在なお14万６千ha程度存在し、引き続き森林造成が必要である。 なお、民有林の保安林以外の面積割合については、減少傾向にある。 関東整備局管内の都道府県における私有林のうち不在村者所有森林は、平成12年から平成17年にかけて減少したものの依然として私有林面積の約２割をしめており、また、そのうち約５割は県外在住者で全国平均を上回っており、地域の森林の管理水準の低下が危惧される。 私有林面積の４割程度を占める林家の保有山林規模別戸数をみると、1ha～10ha未満の林家が９割を占めているものの、面積は５割程度である。。 関東整備局管内の公私営別人工造林面積のうち、森林農地整備センター等の公的主体による人工造林面積の占める割合は全国なみの比率であるものの、増加傾向にあり、公的主体の果たす役割は引き続き大きい。
公益的機能からの重要性及び貢献度、関連公共施設の整備状況	天竜川水系船明ダム、酒匂川水系三保ダム等に係る流域（集水区域）内に当該契約面積のうち47％が存在している。 簡易水道等の水道施設に係る流域（集水区域）内に当該契約面積のうち21％が存在している。

事業関の進捗状況（

生育状況

樹種	生育状況 良	普通	不良 広葉樹化	生育遅れ	小計	計
スギ	6%	84%	4%	6%	10%	100%
ヒノキ	5%	92%		3%	3%	100%
マツ						
カラマツ		100%				100%
その他		100%				100%
計	5%	90%	1%	4%	5%	100%

）

（注）生育状況の基準

良好：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数（森林国営保険における齢級別限界生立本数で、以下同じ。）以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して1.2倍を超えるもの。

普通：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上1.2倍以下のもの。

不良：（a）～（c）は生育遅れ、（d）は広葉樹化に区分

（a）植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。（b）植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上あるもの。（c）植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。（d）広葉樹化した林分のもの。（広葉樹等の侵生天然生樹木が過半を占める林分）

樹種別に不良の割合をみると、スギで10％、ヒノキで3％、樹種計で5％である。

事業の進捗状況（会津・新潟地区）

生育状況

樹種	生育状況 良	普通	不良 広葉樹化	不良 生育遅れ	不良 小計	計
スギ		72%	12%	16%	28%	100%
ヒノキ						
マツ						
カラマツ		100%				100%
その他						
計		76%	10%	14%	24%	100%

樹種別に不良の割合をみると、スギで28%、樹種計で24%である。

(注)生育状況の基準

良好：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数（森林国営保険における齢級別限界生立本数で、以下同じ。）以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して1.2倍を超えるもの。

普通：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上1.2倍以下のもの。

不良：（a）～（c）は生育遅れ、（d）は広葉樹化に区分

（a）植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。（b）植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上あるもの。（c）植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。（d）広葉樹化した林分のもの。（広葉樹等の後生天然性樹木が過半を占める林分）

事業の進捗状況（会津・新潟地区以外）

生育状況

樹種	生育状況 良	普通	不良 広葉樹化	不良 生育遅れ	不良 小計	計
スギ	10%	90%				100%
ヒノキ	5%	93%		2%	2%	100%
マツ						
カラマツ						
その他		100%				100%
計	6%	92%		2%	2%	100%

樹種別に不良の割合をみると、ヒノキで2%、樹種計で2%である。

(注)生育状況の基準

良好：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数（森林国営保険における齢級別限界生立本数で、以下同じ。）以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して1.2倍を超えるもの。

普通：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上1.2倍以下のもの。

不良：（a）～（c）は生育遅れ、（d）は広葉樹化に区分

（a）植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。（b）植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上あるもの。（c）植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。（d）広葉樹化した林分のもの。（広葉樹等の後生天然性樹木が過半を占める林分）

事業コスト縮減の可能性	今後の除伐に当たっては、適期に実施することや植栽木の成長に支障のない広葉樹等は保残するなど、針広混交林等の造成を目指すことによりコスト縮減を図る。 また、枝打に当たっては、生育及び搬出条件の良好な箇所に厳選し、主伐を想定して選木することによりコスト縮減を図る。
景観への配慮	適切な森林整備の実施により、人工林の景観として良好な地域景観の形成に寄与している。なお、作業道開設等においては景観と調和する間伐材等木材を利用した工法の採用を進めている。
関係者の意見・意向（注）	周辺の平均的な山林と同様の生育をしており、所在市町村及び契約相手方からの機能発揮への期待が大きく、引き続き適期作業の計画的な実施を要望している。

(注)関係者の意見・意向については、平成15年度アンケート調査によるものである。

	留　意　事　項
期中評価実施地区の林分についての対応	・　当該地区の個々の契約地の生育状況を見ると、植栽木が順調に生育しつつある林分がほとんどであり、除伐等を行うなど、適正な保育管理を行い、水源かん養機能の発揮を図っていく。 　なお、植栽木の生育が遅れている一部の林分や広葉樹林化しつつある一部の林分については、今後の成長を見極めつつ、林況に応じ除伐を見合わせるなど針広混交林等への誘導等を実施する。 　枝打については、生育状況の良い区域へ重点化する等によりコスト縮減を図る。 ・　過去の契約地の事業実績や評価検討内容を参考にして、適切な保育管理に努める。

項目別取りまとめ表（案）（期中評価委員会検討資料及び委員の意見を取りまとめたもの）

期中評価実施地区名	関東整備局　昭和63年度契約地
契約件数・面積及び植栽面積	契約件数52件　　契約面積1,091ha（会津・新潟地区198ha、会津・新潟地区以外893ha） 植栽面積　　スギ 347ha　ヒノキ 227ha　カラマツ 51ha　その他 1ha （うち会津・新潟地区 116ha　　－ ha　　－ ha　　－ ha）
森林・林業情勢、農山漁村の状況、その他の社会情勢の変化	関東整備局管内の都道府県における民有林のうち未立木地の面積は近年ほぼ横ばい状態にある。そのうち、保安林内外は不明であるものの、現在なお14万６千ha程度存在し、引き続き森林造成が必要である。 なお、民有林の保安林以外の面積割合については、減少傾向にある。 関東整備局管内の都道府県における私有林のうち不在村者所有森林は、平成12年から平成17年にかけて減少したものの依然として私有林面積の約２割をしめており、また、そのうち約５割は県外在住者で全国平均を上回っており、地域の森林の管理水準の低下が危惧される。 私有林面積の４割程度を占める林家の保有山林規模別戸数をみると、1ha～10ha未満の林家が９割を占めているものの、面積は５割程度である。。 関東整備局管内の公私営別人工造林面積のうち、森林農地整備センター等の公的主体による人工造林面積の占める割合は全国なみの比率であるものの、増加傾向にあり、公的主体の果たす役割は引き続き大きい。
公益的機能からの重要性及び貢献度、関連公共施設の整備状況	利根川水系須田貝ダム、天竜川水系船明ダム等に係る流域（集水区域）内に当該契約面積のうち46%が存在している。 簡易水道等の水道施設に係る流域（集水区域）内に当該契約面積のうち30%が存在している。

事業の進捗状況（関東計）

生育状況

樹種	生育状況 良	普通	不良 広葉樹化	不良 生育遅れ	不良 小計	計
スギ	8%	85%		7%	7%	100%
ヒノキ	22%	67%	2%	9%	11%	100%
マツ						
カラマツ		69%		31%	31%	100%
その他		100%				100%
計	12%	78%	1%	9%	10%	100%

（注）生育状況の基準

良好：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数（森林国営保険における齢級別限界生立本数で、以下同じ。）以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して1.2倍を超えるもの。

普通：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上1.2倍以下のもの。

不良：（ａ）～（ｃ）は生育遅れ、（ｄ）は広葉樹化に区分

（ａ）植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。（ｂ）植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上あるもの。（ｃ）植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。（ｄ）広葉樹化した林分のもの。（広葉樹等の後生天然性樹木が過半を占める林分）

樹種別に不良の割合をみると、スギで7%、ヒノキ11%、カラマツで31%、樹種計で10%である。

事業の進捗状況（会津・新潟地区）

生育状況

樹種	生育状況 良	普通	不良 広葉樹化	不良 生育遅れ	不良 小計	計
スギ		99%		1%	1%	100%
ヒノキ						
マツ						
カラマツ						
その他						
計		99%		1%	1%	100%

樹種別に不良の割合をみると、スギで1%、樹種計で1%である。

（注）生育状況の基準
良好：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数（森林国営保険における齢級別限界生立本数で、以下同じ。）以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して1.2倍を超えるもの。
普通：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上1.2倍以下のもの。
不良：（a）～（c）は生育遅れ、（d）は広葉樹化に区分
（a）植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。（b）植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上あるもの。（c）植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。（d）広葉樹化した林分のもの。（広葉樹等の後生天然生樹木が過半を占める林分）

事業の進捗状況（会津・新潟地区以外）

生育状況

樹種	生育状況 良	普通	不良 広葉樹化	不良 生育遅れ	不良 小計	計
スギ	12%	79%		9%	9%	100%
ヒノキ	22%	67%	2%	9%	11%	100%
マツ						
カラマツ		69%		31%	31%	100%
その他		100%				100%
計	15%	73%	1%	11%	12%	100%

樹種別に不良の割合をみると、スギで9%、ヒノキで11%、カラマツで31%、樹種計で12%ある。

（注）生育状況の基準
良好：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数（森林国営保険における齢級別限界生立本数で、以下同じ。）以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して1.2倍を超えるもの。
普通：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上1.2倍以下のもの。
不良：（a）～（c）は生育遅れ、（d）は広葉樹化に区分
（a）植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。（b）植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上あるもの。（c）植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。（d）広葉樹化した林分のもの。（広葉樹等の後生天然生樹木が過半を占める林分）

事業コスト縮減の可能性	今後の除伐に当たっては、適期に実施することや植栽木の成長に支障のない広葉樹等は保残するなど、針広混交林等の造成を目指すことによりコスト縮減を図る。 また、枝打に当たっては、生育及び搬出条件の良好な箇所に厳選し、主伐を想定して選木することによりコスト縮減を図る。
景観への配慮	適切な森林整備の実施により、人工林の景観として良好な地域景観の形成に寄与している。なお、作業道開設等においては景観と調和する間伐材等木材を利用した工法の採用を進めている。
関係者の意見・意向（注）	周辺の平均的な山林と同様の生育をしており、所在市町村及び契約相手方からの機能発揮への期待が大きく、引き続き適期作業の計画的な実施を要望している。

（注）関係者の意見・意向については、平成15年度アンケート調査によるものである。

	留　意　事　項
期中評価実施地区の林分についての対応	・　当該地区の個々の契約地の生育状況を見ると、一部広葉樹林化した林分及び植栽木の生育が遅れている林分が存在するものの、契約地全体としては植栽木が順調に生育しつつあるので、除伐等を行うなど、適正な保育管理を行い、水源　かん養機能の発揮を図っていく。 　また、植栽木の生育が遅れている一部の林分や広葉樹林化しつつある一部の林分については、今後の成長を見極めつつ、林況に応じ除伐を見合わせるなど針広混交林等への誘導等を実施する。 　枝打については、生育状況の良い区域へ重点化する等によりコスト縮減を図る。 ・　過去の契約地の事業実績や評価検討内容を参考にして、適切な保育管理に努める。

項目別取りまとめ表（案）（期中評価委員会検討資料及び委員の意見を取りまとめたもの）

期中評価実施地区名	関東整備局　平成5年度契約地
契約件数・面積及び植栽面積	契約件数48件　　契約面積676ha（会津・新潟地区44ha、会津・新潟地区以外632ha） 植栽面積　　スギ 69ha　ヒノキ 187ha　カラマツ 36ha　その他 15ha （うち会津・新潟地区 18ha　　－ ha　　－ ha　　－ ha）
森林・林業情勢，農山漁村の状況、その他の社会情勢の変化	関東整備局管内の都道府県における民有林のうち未立木地の面積は近年ほぼ横ばい状態にある。そのうち、保安林内外は不明であるものの、現在なお14万6千ha程度存在し、引き続き森林造成が必要である。 なお、民有林の保安林以外の面積割合については、減少傾向にある。 関東整備局管内の都道府県における私有林のうち不在村者所有森林は、平成12年から平成17年にかけて減少したものの依然として私有林面積の約2割をしめており、また、そのうち約5割は県外在住者で全国平均を上回っており、地域の森林の管理水準の低下が危惧される。 私有林面積の4割程度を占める林家の保有山林規模別戸数をみると，1ha～10ha未満の林家が9割を占めているものの、面積は5割程度である。。 関東整備局管内の公私営別人工造林面積のうち、森林農地整備センター等の公的主体による人工造林面積の占める割合は全国なみの比率であるものの、増加傾向にあり、公的主体の果たす役割は引き続き大きい。
公益的機能からの重要性及び貢献度、関連公共施設の整備状況	天竜川水系船明ダム、利根川水系五十里ダム等に係る流域（集水区域）内に当該契約面積のうち50％が存在している。 簡易水道等の水道施設に係る流域（集水区域）内に当該契約面積のうち18％が存在している。

事業の進捗状況（関係）

生育状況

樹種	生育状況 良	普通	不良 広葉樹化	不良 生育遅れ	不良 小計	計
スギ	16%	80%	4%		4%	100%
ヒノキ	21%	73%		6%	6%	100%
マツ						
カラマツ	19%	81%				100%
その他		100%				100%
計	18%	77%	1%	4%	5%	100%

（注）生育状況の基準

良好：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数（森林国営保険における齢級別限界生立本数で、以下同じ。）以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して1.2倍を超えるもの。

普通：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上1.2倍以下のもの。

不良：（a）～（c）は生育遅れ、（d）は広葉樹化に区分

（a）植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。（b）植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上あるもの。（c）植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。（d）広葉樹化した林分のもの。（広葉樹等の後生天然性樹木が過半を占める林分）

樹種別に不良の割合をみると、スギで4%、ヒノキで6%、樹種計で5%である。

事業の進捗状況（会津・新潟地区）

生育状況

樹種	生育状況					
	良	普通	不良			計
			広葉樹化	生育遅れ	小計	
スギ		100%				100%
ヒノキ						
マツ						
カラマツ						
その他						
計		100%				100%

（注）生育状況の基準

良好：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数（森林国営保険における齢級別限界生立本数で、以下同じ。）以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して1.2倍を超えるもの。

普通：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上1.2倍以下のもの。

不良：（a）～（c）は生育遅れ、（d）は広葉樹化に区分

（a）植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。（b）植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上あるもの。（c）植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。（d）広葉樹化した林分のもの。（広葉樹等の後生天然性樹木が過半を占める林分）

事業の進捗状況（会津・新潟地区以外）

生育状況

樹種	生育状況					
	良	普通	不良			計
			広葉樹化	生育遅れ	小計	
スギ	22%	72%	6%		6%	100%
ヒノキ	21%	73%		6%	6%	100%
マツ						
カラマツ	19%	81%				100%
その他		100%				100%
計	20%	75%	1%	4%	5%	100%

（注）生育状況の基準

良好：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数（森林国営保険における齢級別限界生立本数で、以下同じ。）以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して1.2倍を超えるもの。

普通：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上1.2倍以下のもの。

不良：（a）～（c）は生育遅れ、（d）は広葉樹化に区分

（a）植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。（b）植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上あるもの。（c）植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。（d）広葉樹化した林分のもの。（広葉樹等の後生天然性樹木が過半を占める林分）

樹種別に不良の割合をみると、スギで6%、ヒノキで6%、樹種計で5%である。

事業コスト縮減の可能性	今後の除伐に当たっては、適期に実施することや植栽木の成長に支障のない広葉樹等は保残するなど、針広混交林等の造成を目指すことによりコスト縮減を図る。 また、枝打に当たっては、生育及び搬出条件の良好な箇所に厳選し、主伐を想定して選木することによりコスト縮減を図る。
景観への配慮	適切な森林整備の実施により、人工林の景観として良好な地域景観の形成に寄与している。なお、作業道開設等においては景観と調和する間伐材等木材を利用した工法の採用を進めている。
関係者の意見・意向（注）	周辺の平均的な山林と同様の生育をしており、所在市町村及び契約相手方からの機能発揮への期待が大きく、引き続き適期作業の計画的な実施を要望している。

（注）関係者の意見・意向については、平成15年度アンケート調査によるものである。

	留　意　事　項
期中評価実施地区の林分についての対応	・　当該地区の個々の契約地の生育状況を見ると、植栽木が順調に生育しつつある林分がほとんどであり、除伐等を行うなど、適正な保育管理を行い、水源かん養機能の発揮を図っていく。 　なお、植栽木の生育が遅れている一部の林分や広葉樹林化しつつある一部の林分については、今後の成長を見極めつつ、林況に応じ除伐を見合わせるなど針広混交林等への誘導等を実施する。 　枝打については、生育状況の良い区域へ重点化する等によりコスト縮減を図る。 ・　過去の契約地の事業実績や評価検討内容を参考にして、適切な保育管理に努める。

項目別取りまとめ表（案）（期中評価委員会検討資料及び委員の意見を取りまとめたもの）

期中評価実施地区名	関東整備局　平成10年度契約地
契約件数・面積及び植栽面積	契約件数64件　　契約面積842ha（会津・新潟地区168ha、会津・新潟地区以外673ha） 植栽面積　　スギ 178ha　ヒノキ 319ha　カラマツ 4ha　その他 54ha （うち会津・新潟地区　84ha　　－ ha　　－ ha　　23ha）
森林・林業情勢、農山漁村の状況、その他の社会情勢の変化	関東整備局管内の都道府県における民有林のうち未立木地の面積は近年ほぼ横ばい状態にある。そのうち、保安林内外は不明であるものの、現在なお14万６千ha程度存在し、引き続き森林造成が必要である。 なお、民有林の保安林以外の面積割合については、減少傾向にある。 関東整備局管内の都道府県における私有林のうち不在村者所有森林は、平成12年から平成17年にかけて減少したものの依然として私有林面積の約２割をしめており、また、そのうち約５割は県外在住者で全国平均を上回っており、地域の森林の管理水準の低下が危惧される。 私有林面積の４割程度を占める林家の保有山林規模別戸数をみると、1ha～10ha未満の林家が９割を占めているものの、面積は５割程度である。。 関東整備局管内の公私営別人工造林面積のうち、森林農地整備センター等の公的主体による人工造林面積の占める割合は全国なみの比率であるものの、増加傾向にあり、公的主体の果たす役割は引き続き大きい。
公益的機能からの重要性及び貢献度、関連公共施設の整備状況	都田川水系都田川ダム、多摩川水系小河内ダム等に係る流域（集水区域）内にが当該契約面積のうち50％が存在している。 簡易水道等の水道施設に係る流域（集水区域）内に当該契約面積のうち34％が存在している。

事業の進捗状況（関係の進捗状況）

生育状況

樹種	生育状況					
	良	普通	不良			計
			広葉樹化	生育遅れ	小計	
スギ	20%	79%	1%		1%	100%
ヒノキ	9%	82%		9%	9%	100%
マツ						
カラマツ		100%				100%
その他		100%				100%
計	12%	83%		5%	5%	100%

（注）生育状況の基準

良好：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数（森林国営保険における齢級別限界生立本数で、以下同じ。）以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して1.2倍を超えるもの。

普通：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上1.2倍以下のもの。

不良：（a）～（c）は生育遅れ、（d）は広葉樹化に区分

（a）植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。（b）植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上あるもの。（c）植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。（d）広葉樹化した林分のもの。（広葉樹等の後生天然性樹木が過半を占める林分）

樹種別に不良の割合をみると、スギで1%、ヒノキで9%、樹種計で5%である。

事業の進捗状況（会津・新潟地区）

生育状況

樹種	生育状況 良	普通	不良 広葉樹化	不良 生育遅れ	不良 小計	計
スギ		100%				100%
ヒノキ						
マツ						
カラマツ						
その他		100%				100%
計		100%				100%

（注）生育状況の基準

良好：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数（森林国営保険における齢級別限界生立本数で、以下同じ。）以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して1.2倍を超えるもの。

普通：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上1.2倍以下のもの。

不良：（a）～（c）は生育遅れ、（d）は広葉樹化に区分

（a）植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。（b）植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上あるもの。（c）植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。（d）広葉樹化した林分のもの。（広葉樹等の後生天然性樹木が過半を占める林分）

事業の進捗状況（会津・新潟地区以外）

生育状況

樹種	生育状況 良	普通	不良 広葉樹化	不良 生育遅れ	不良 小計	計
スギ	31%	68%	1%		1%	100%
ヒノキ	10%	82%		8%	8%	100%
マツ						
カラマツ		100%				100%
その他		100%				100%
計	14%	80%		6%	6%	100%

（注）生育状況の基準

良好：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数（森林国営保険における齢級別限界生立本数で、以下同じ。）以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して1.2倍を超えるもの。

普通：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上1.2倍以下のもの。

不良：（a）～（c）は生育遅れ、（d）は広葉樹化に区分

（a）植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。（b）植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上あるもの。（c）植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。（d）広葉樹化した林分のもの。（広葉樹等の後生天然性樹木が過半を占める林分）

樹種別に不良の割合をみると、スギで1%、ヒノキで8%、樹種計で6%である。

事業コスト縮減の可能性

今後の除伐に当たっては、適期に実施することや植栽木の成長に支障のない広葉樹等は保残するなど、針広混交林等の造成を目指すことによりコスト縮減を図る。

また、枝打に当たっては、生育及び搬出条件の良好な箇所に厳選し、主伐を想定して選木することによりコスト縮減を図る。

景観への配慮

適切な森林整備の実施により、人工林の景観として良好な地域景観の形成に寄与している。なお、作業道開設等においては景観と調和する間伐材等木材を利用した工法の採用を進めている。

関係者の意見・意向（注）

周辺の平均的な山林と同様の生育をしており、所在市町村及び契約相手方からの機能発揮への期待が大きく、引き続き適期作業の計画的な実施を要望している。

（注）関係者の意見・意向については、平成15年度アンケート調査によるものである。

	留　意　事　項
期中評価実施地区の林分についての対応	・　当該地区の個々の契約地の生育状況を見ると、植栽木が順調に生育しつつある林分がほとんどであり、除伐等を行うなど、適正な保育管理を行い、水源かん養機能の発揮を図っていく。 なお、植栽木の生育が遅れている一部の林分や広葉樹林化しつつある一部の林分については、今後の成長を見極めつつ、林況に応じ除伐を見合わせるなど針広混交林等への誘導等を実施する。 枝打については、生育状況の良い区域へ重点化する等によりコスト縮減を図る。 ・　過去の契約地の事業実績や評価検討内容を参考にして、適切な保育管理に努める。